

富山経協



サクラ '仙台屋' (解説・22ページ)

CONTENTS

- 2 年度初めのご挨拶
- 3 2023年度 事業方針
- 4 2023年度 年間事業活動計画
- 6 2023年度 委員会活動紹介
- 9 人事労務管理 INFORMATION
- 10 Top Interview
長谷川製作所 長谷川俊太郎社長
- 12 調査報告
2023年4月新卒者等の採用に関する調査結果
- 14 事業活動報告
理事会、幹事会、連合との懇談会
- 16 委員会活動
- 17 講座・セミナー
- 18 参加者NOTES
- 22 会員の動き
- 23 労働指標
- 24 おしらせ・事業予定



年度初めのご挨拶

一般社団法人 富山県経営者協会

会 長 山下 清胤

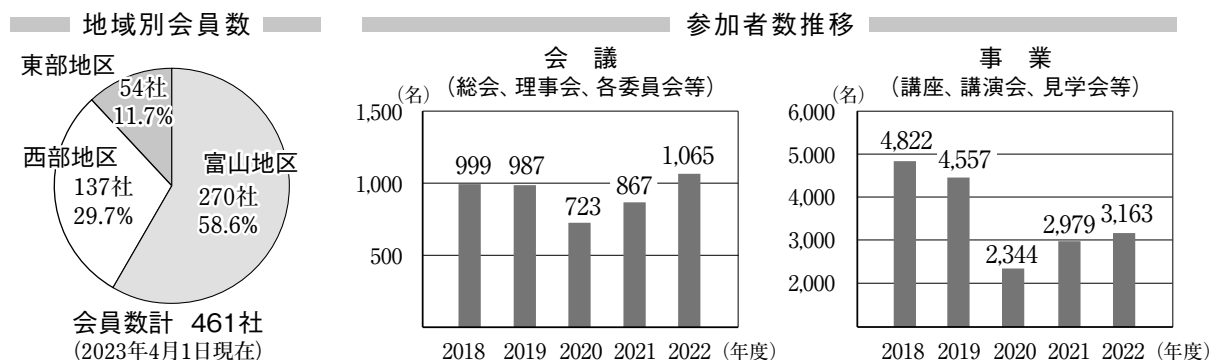
3月24日にこの原稿を書いています。一昨日のWBCでの侍ジャパン世界一獲得は日本中が興奮し、久しぶりに晴れ晴れとした気持ちになれる出来事でした。また、コロナ禍も3年余りを経て人類の様々な試行錯誤もあり、まだ安心はできませんが、その社会的・経済的打撃は徐々に軽減しつつあります。一方、ロシアのウクライナ侵略は1年以上たちましたが、どうすれば終息に向かうのか、今も全く見通せません。さらに、2月にはトルコ・シリア大地震が発生するなど社会、政治、経済から自然界まで想定外の出来事が続いています。

様々な出来事が複合的に絡み合った結果、エネルギー・資源・資材などの価格高騰により、我々経営者協会会員企業も経営的・経済的難題に直面していることと思いますが、当協会では現下の問題解決に対して「適切な価格転嫁の実現に向けて」～「パートナーシップ構築宣言」の実効性向上～の普及を推進しています。

その際の重要ポイント。1点目は、サプライチェーン全体で、上流から下流・末端まで淀みのない価格転嫁が必要。2点目は、末端までとなると消費者物価も上昇し、賃金上昇も含めた価格転嫁が必要。賃金上昇がないと経済が回らず、回復もしない。3点目は、中小企業に限らず全ての企業での価格転嫁も重要。国や主要経済団体は中小企業を強調していますが、企業規模を問わず全てで価格転嫁が進まない则自社の業績や賃金を犠牲にしてまで仕入価格上昇に 대응することは難しく、結局サプライチェーンが寸断することになります。4点目は価格転嫁と宣言の実効性向上。県内でも宣言をする企業数は増加しているものの、この趣旨が取引現場に十分に浸透していないことがあるのも事実です。会員企業の皆様には、何卒、この取り組みの推進に向け、一層のご理解、ご協力をお願いいたします。

結びに、皆様のご活躍と企業のご発展を祈念いたしますとともに、本年度も富山県経営者協会は創造的で活力のある企業経営の実現を目指し様々な取り組みを行ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

協会の現況



2023年度事業方針

基 本 理 念

富山経協は、創造的で活力のある企業経営の実現をめざし、
地域社会の発展に貢献します。

事 業 方 針

世界経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和する中で緩やかに持ち直しているものの、世界的な物価上昇圧力が残存する中で各国の金融引き締めによる内需の下振れなどに加え、終結が見えないウクライナ戦争が引き続き、経済活動の重しとなっている。

一方、国内においては、先行きが不確実な情勢の中、慢性的な人手不足、適切な価格転嫁、物価上昇への対応や賃金引上げ、社会保障制度の影響など、社会全体に関わる重要な課題が山積している状況である。

このような時にこそ、富山県経営者協会が長年「企業と人」にフォーカスしてきた事業活動が、ますます重要になっており、富山で事業を営む経営者で構成する民間経済団体として、あるべき姿を自覚し、新たな行動をすることにより、存在価値を高めていく。そのために多様化する会員ニーズに対応した経営課題の研究と広報、労働生産性の向上、会員企業で働くすべての社員の能力向上を目的とする研修・セミナー等、事業活動を進め、会員サービスの向上につなげていく。

1. 企業経営に必要とするタイムリーな情報の収集と提供

- (1) 経営課題に関する調査研究と情報発信を行う。
- (2) 会員に必要な情報収集と発信を行う。
- (3) 人事労務、環境経営、人材育成に関する相談活動の充実を図る。

2. 「企業と人」にフォーカスした委員会活動の推進

- (1) 委員会の役割・目的を明確にし、タイムリーな研究・情報発信を行う。
- (2) あらゆる業種・階層に応じた人材育成の研修・セミナーを企画・実施する。
- (3) 『エンゲージメント向上による現場力強化』をテーマに研究・情報発信を行う。

3. 事業活動とサービスの幅を広げた会員相互の交流機会の支援

- (1) 総会、幹事会、地区懇談会を開催する。
- (2) 会員企業の見学会とビジネス交流の機会を提供・支援する。
- (3) 多様な交流機会を提供する。

4. 会員ニーズに沿った事業活動とサービスの提供

- (1) 会員訪問活動を強化し、要望やニーズを踏まえた事業活動を実施する。
- (2) 研修・セミナーは実施後評価を踏まえて、スクラップ&ビルドを行う。
- (3) 「人的資本経営」、「労働生産性の向上」、「働き方改革の深化」、「労働法制の改正」等、先進的事例のセミナーを開催する。

5. 民間経済団体として機能発揮と地域社会発展への貢献

- (1) 会員状況把握、政策提言・要望活動を実施する。
- (2) 行政との連携と相互事業を実施する。
- (3) 経団連・他団体との情報連携を図る。

2023年度 年間事業

			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
会 議			理 事 会 (24日)	定時総会 (25日) 理 事 会 (25日)		北陸三県・長野県 経営者協会役員 協議会 (14日・15日)		理 事 会 (15日)
事 業				講 演 会 (25日)		西部地区会員懇談会 (28日)		富山地区会員懇談会 (15日)
調 査			新入社員意識調査		初 任 給 調 査 夏季賞与調査	経営課題調査		新入社員意識調査 (フォローアップ編)
広 報			富山経協4月号		富山経協6月号 講演録「不易流行」		富山経協8月号	
委 員 会	総務交流	会議				定 例 委 員 会		定 例 委 員 会
		活動						富山経協ゴルフコンペ (16日)
	人事・労務	会議	幹 事 会	定 例 委 員 会			定 例 委 員 会	
		活動		企 業 見 学 会	労働法関連法制 研究部会	メンタルヘルス部会	講 演 会	労働法関連法制 研究部会
	教育	会議			定 例 委 員 会		定 例 委 員 会	
		活動	研 究 部 会		企 業 見 学 会	研 究 部 会	勉 強 会	研 究 部 会
	品質管理	会議	幹 事 会			定 例 委 員 会		定 例 委 員 会
		活動			会報編集部会	企 業 見 学 会	会報編集部会	事例発表会・GD
	環境	会議	幹 事 会			定 例 委 員 会		定 例 委 員 会
		活動			県内企業見学会 環境保全活動	県との情報交換		講演会（勉強会） 環境保全活動
	経営企画・IT	会議			定 例 委 員 会			定 例 委 員 会
		活動			経営課題調査 テーマ設定 勉 強 会			セ ミ ナ ー
講 座 ・ セ ミ ナ ー	階層別研修		新入社員合同研修 (A 6日) (B 11日)	職場リーダー基本 コース <2日間> (16日・17日)	管理職基礎コース <3日間> (20日・21日 ・10月19日)	職場リーダー入門コース <2日間・2回> (A 4日・5日) (B 11日・12日) 部課長実践講座 <2泊3日>(20日～22日)		自部門戦略立案研修 <2日間> (12日・13日) 新入社員フォロー アップ研修<2回> (A 20日) (B 21日)
	共通（目的別）			仕事の基本「報連相」 セミナー (10日) ISO14001内部監査員 養成講座<2日間> (16日・17日)	ヒューマンエラー 対策講座【実践編】 <2日間>(6日・7日) コミュニケーション力 向上セミナー (8日)	会議の生産性を向上 するビジネス・ファシリ テーター養成講座 (26日)	なぜなぜ分析活用 セミナー 【基本コース】(2日) 【ブラッシュアップ コース】(9日) 女性社員スキルア ップセミナー (22日)	ISO14001内部監査員 養成講座<2日間> (5日・6日)
	労務管理			人事・労務管理セミナー 第1回 (23日)	労働法実務講座 第1回 (22日)		人事・労務管理セミナー 第2回 (23日)	労働法実務講座 第2回 (7日)
	品質管理		品質管理入門講座【基礎編】<4日間> (4月13日～5月11日)					
			実践しながら学ぶ統計的手法活用講座<15日間> (5月18日～11月22日)					
	生産管理				ものづくりと現場改善 実践セミナー<1泊2日> (20日・21日)			IE手法による生産現場 の改善セミナー (8日)
	購買管理							購買管理実践 セミナー (27日)
	営業		営業力強化研修 <2日間>(18日・19日)					
	経理						財務会計の基礎講座 (4日)	

活動計画

10 月	11 月	12 月	2023年 1 月	2 月	3 月		
					理事会・幹事会（8日） 連合富山との懇談会（8日）	会 議	
	東部地区会員懇談会 （10日）		経済団体新春互礼会 （4日）			事 業	
	冬季賞与調査 新春アンケート	経営課題調査		新卒者採用調査	2023年度調査報告書 春季賃金改定調査	調 査	
富山経協10月号		富山経協12月号	富山経協新春号	富山経協2月号		広 報	
		定 例 委 員 会				会議	総務交流
企業見学研修会	会員交流ボウリング大会 （15日）					活動	
	幹 事 会	定 例 委 員 会		定 例 委 員 会		会議	人事・労務
メンタルヘルス部会	労働法関連法制 研究部会	講 演 会	メンタルヘルス部会	講 演 会 労働法関連法制 研究部会		活動	
	幹 事 会	定 例 委 員 会		定 例 委 員 会		会議	教育
		勉 強 会		企 業 見 学 会		活動	
	幹 事 会	定 例 委 員 会		定 例 委 員 会		会議	品質管理
県外企業見学研修会 会報編集部会		事例発表会・GD 会報編集部会		勉 強 会 会報編集部会		活動	
	幹 事 会	定 例 委 員 会				会議	環境
県外（県内）企業見学会		講 演 会 事 例 発 表 会		セ ミ ナ ー		活動	
	定 例 委 員 会			定 例 委 員 会		会議	経営企画・IT
	次年度協会活動 テーマ設定 経営課題調査 テーマ設定 勉 強 会					活動	
職場リーダー実践コース ＜2日間＞ （3日・4日） 若手社員実践コース （20日）	管理職中級ステップ アップコース ＜2日間＞ （14日・15日）		企業倫理研修 （23日）	職場リーダー実践コース ＜2日間＞ （20日・21日）	若手社員ステップ アップコース（5日）	階層別研修	
改善セミナー 【基礎編】（6日） ヒューマンエラー 未然防止セミナー （13日）	ISO9001内部監査員 養成講座＜2日間＞ （7日・8日） タイムマネジメント 研修（22日）		C S 顧客価値実現 セミナー（16日）		ISO9001内部監査員 養成講座＜2日間＞ （6日・7日） 改善セミナー 【応用編】（12日）	共通（目的別）	
	労働法実務講座 第3回（16日）			労働法実務講座 第4回（16日）		労務管理	
労務管理実務講座＜5日間＞（10月5日～11月1日）				春季労使交渉セミナー			
	変化点管理の考え方 進め方セミナー（17日）		品質管理入門講座【実践編】＜4日間＞ （1月18日～2月8日）			品質管理	
ものづくり女性社員 のための改善力向上 セミナー（24日）	5 S と目で見える管理 実践セミナー（28日）					生産管理	
						購買管理	
						営業	
						経理	

2023年度 委員会活動紹介

総務交流委員会

委員長 矢野 茂

(北陸電気工事株式会社
代表取締役社長)



当委員会では、経営課題に関する情報交換を行うとともに、会員ニーズに即し、経営判断の参考となる調査・情報提供・広報を行い、会員ならびに富山県の産業界の発展につながる人脈構築、会員相互の連携を深めることを目的に事業活動を行っております。

今年度も当委員会の活動としては、「会員交流事業」「調査活動」「企業見学研修会」を実施してまいります。「調査活動」においては、定期・経営課題調査を通じた有用な情報提供に努めておりますので、今後共、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また「会員交流事業」については、引き続きゴルフコンペやボウリング大会開催を計画しており、コロナ禍収束が見えつつある中で、会員の皆様同士が4年ぶりにマスクを外し、笑顔で交流できることを願っております。

● 活動概要

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、調査活動におけるタイムリーな経営課題テーマによる調査内容や会員交流事業の活性化などについて審議を行っております。

<調査活動>

「調査活動」は、総務交流委員会が主体となって実施しております。毎年、賃金改定、初任給、賞与、新卒採用等に関する調査や、その時々の経営課題に関する調査を実施し、調査結果を報道機関に公表するとともに、会員の皆さまに機関誌やホームページを利用して、有用でタイムリーな情報提供を行っております。

<事業活動>

「会員交流事業」として、9月のゴルフコンペ、11月のボウリング大会に加え、企業・施設見学会も実施する予定です。

人事・労務政策委員会

委員長 八十島 清吉

(株式会社 タカギセイコー
取締役相談役)



当委員会は、企業における『人』の活用（雇用、育成、能力発揮、管理）に関する諸制度や法令を研究・周知し、健全な労使関係を維持しつつ、時代に即した労務政策を研究・提言することにより、会員企業の発展と経営の安定に貢献することを目的としています。

今年度は「エンゲージメント向上による現場力強化」をテーマに、企業見学会や講演会・セミナー等を開催し、働き方改革を含めた労働生産性の向上、人材の採用・定着・活用的高度化、コミュニケーション強化による現場力向上等の取り組み事例の情報発信、共有化を図っていく予定です。また、経営者の視点に立った情報提供を行うセミナーの開催や部会活動も実施いたします。会員企業の皆様のご協力、ご参加をよろしくお願いいたします。

● 活動概要

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、経団連や県等の外部団体との情報・意見交換も行っております。

今年度も「働き方改革」の推進に関する最新情報の確認や情報交換等を実施するとともに、「人事労務に関する取り組み事例の共有」をねらいに先進企業の見学会も実施する予定です。

<研究部会活動>

・労働法関連制研究部会（年4回開催）

最新の労働判例について、弁護士を講師に判例解説、意見交換を実施しております。

・メンタルヘルス部会（年3回開催）

専門機関の講師を招き実務担当者を中心にメンタルヘルスに関する勉強会・意見交換会を実施しております。

<事業活動>

経営者協会で実施する人事・労務に関わる講座・セミナーで取り上げるテーマや内容について審議を行い、①人事・労務管理セミナー、②労働法実務講座、③労務管理実務講座等を開催しております。

教育委員会

委員長 品川祐一郎

(トヨタモビリティ富山株式会社
代表取締役社長)



当委員会では、人的資本経営の実践に向けて、人材育成や企業内教育の諸課題について幅広く調査研究するとともに、会員企業の社員教育、マネジメント向上の一助となるよう様々な研修メニューを提供し、会員企業の発展に貢献することを目的としております。

本年も、委員会活動としては「企業見学会」や「勉強会」、「研究部会」などを通じて、人材育成や企業風土改革に関する幅広い情報交換と研究を行いたいと考えております。また、その成果を生かし「階層別研修」をはじめ「職能別研修」など時宜に適したテーマ・内容でより効果の高い研修を、リアル・オンラインの両面で企画・実施し、会員企業の皆様の人材育成やマネジメント教育に寄与してまいりたいと考えておりますので、皆様のご参加、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

● 活動概要

<定例委員会>

定例委員会を6月・8月・12月・2月の年4回開催しております。6月と2月は「企業見学会」を、8月と12月は「リーダーのための『心理的安全性』」の高い職場のつくり方」や「リーダーシップの勘違い〜キャリア再構築・自己理解を通じたリーダーへの処方箋〜」をテーマとした「勉強会」を、定例委員会と合わせて実施する予定です。

<研究部会活動>

「従業員の離職防止およびエンゲージメント向上への対応」をテーマに、将来に向けて各社が自社の経営ビジョンを実現していくにあたり、いかに人材の定着を図り、エンゲージメントを高めていくかという観点で良好事例等を調査し、議論することを目的に、教育委員会参加企業内で活用していただくことをゴールとします。

<事業活動>

階層別研修を15講座、職能別研修を11講座開催します。リアル研修とオンライン研修の併用開催を実施するなど、時宜に適したスタイル・テーマ・内容で開催いたします。

品質管理委員会

委員長 谷川 正人

(コーセル株式会社
取締役会長)



当委員会の目的は、企業経営における『品質』の重要性を認識し、「顧客・品質第一」を基本とした考え方のもと、品質経営・品質管理活動の普及と向上を図ることで、会員企業の発展に貢献することです。

事業環境が大きく変化する中、社会ニーズの多様化・高度化への対応、新たな価値の創出など、企業には、これまで以上に変化を先取りしつつ対応していく現場力、組織能力が求められています。

当委員会としては、「委員の相互交流」や「品質経営の重要な考え方や具体的取り組みを内外から学ぶこと」を重点として、今年度は特に技術進歩が著しい「デジタル技術の活用」の活動に注力し、各企業の基盤強化や変化に対応する現場力・組織能力向上に役立ててもらいたいと考えています。皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

● 活動概要

<定例委員会>

今年度の活動テーマを「品質管理のためのデジタル技術の活用知識向上」とし、引き続き、委員に加え、若手担当者も交えた相互の情報交換・経験交流として「事例発表・GD形式」を2回、他社の活動を実際に目で見て体感する場として「委員企業見学会」を1回、日本の品質経営・品質管理の先進企業を直接見て学び、品質管理活動の意識を高め、会員相互の啓発を図ることをねらいに「県外企業見学研修会」を1回計画いたしました。

また、品質に関する重要な考え方を学ぶ勉強会を1回開催するとともに、日本科学技術連盟主催の「品質管理シンポジウム」への参加を計画しています。

なお、品質管理委員会会報紙「join♡T」の第3号を引き続き発行する予定としています。

<事業活動>

人材育成に関わる「講座・セミナー」を15講座開催し、委員の講座・セミナー担当制を引き続き実施することにより、講師との情報交換を行い、階層別・分野別の品質管理教育の計画的実施と内容の見直し等を行っております。

環境委員会

委員長 小田 満広
(北陸電力株式会社
常務執行役員)



当委員会は、持続可能な循環型社会を目指し、かけがえのない地球環境を次世代へ引き継ぐとともに、事業活動を通じ、環境保全と安定的経済社会の両立を図ることを目的として活動しております。

さて、昨年度の委員会活動としては、富山県機電工業会の皆様との情報交換会や事例発表会、県内企業における環境価値創造への取り組み等についての見学会も実施いたしました。いずれも、沢山の会員の皆様に参加いただき、活動内容も活発化してきており、コロナ前の状況に近づいてまいりました。

引き続き、今年度も会員の皆様と、環境行政に関する情報や会員の皆様が取り組んでいる事例等、カーボンニュートラル全般に関する情報を共有、交換ができるよう、諸活動を展開してまいりますので、皆様のご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

● 活動概要

<定例委員会>

富山県や日本経済団体連合会等による環境問題に関する情報提供を行い、カーボンニュートラルを含めた持続可能な循環型社会構築の一助となるよう活動いたします。さらに、富山県機電工業会の環境委員会と共催で講演会・事例発表会を計画し、委員会を超えた情報交換・相互交流の促進にも取り組みます。

<事業活動>

環境経営導入・強化に向けた人材育成策として、会員ニーズの高まりを受け「ISO14001内部監査員養成講座」を5月と9月の2回開催いたします。

また、環境問題に対する様々な取り組みを実際に目で見て体感することを目的に、「県内・県外企業見学会」の実施や、オイスカ富山県支部の「環境保全活動」にも参加をし、地球環境の保全に少しでも役立てるような活動をしています。

経営企画・IT委員会

委員長 萩中 利昌
(三協立山株式会社
執行役員)



当委員会は、「経営者・経営層を対象とした経営課題に関する研究・調査を行いその成果を情報発信するとともに、経営理念や方針等を社員に浸透させる取り組みや仕掛けについての勉強会・見学会を企画実施する」ことと、「企業経営環境の変化に対応した重要課題を委員会で議論・意見交換し、その中で浮かび上がった緊急課題を理事会に提言し協会の政策立案につなげる」ことを活動目的としております。

今年度は、協会活動テーマである「エンゲージメント向上による現場力強化」のもと、各種経営課題についての研究・調査活動、情報発信、および行政・他団体とも連携した施策の実施・支援など、皆様の継続的な発展に寄与できるよう取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

● 活動概要

<定例委員会>

委員相互の情報交換の場として年4回開催しております。今年度は6月と11月に経営課題調査のテーマ設定、11月に協会活動テーマを検討する予定です。また、勉強会を6月と11月に、県との共催でセミナーを9月に実施する予定です。

<事業活動>

経営者の役割に特化した経営課題をテーマに研究・調査活動について審議・検討を行い、議論の中で浮かび上がった緊急課題については理事会に提言し、協会の政策立案につなげております。その上で、総会や地区会員懇談会における講演会等の企画・実施を行っております。

<ITインフラ部会活動>

企業の生産性向上に向け、経営の切り口からIT活用について調査・研究を行っているほか、参加企業間でのIT活用や情報セキュリティのあり方等について情報交換を行っております。

委員会活動についてのお問い合わせは 事務局まで

TEL (076) 441-9588
Eメール info@toyama-keikyo.jp

富山県の労働環境報告

富山労働局より、2022年度の労働行政に関する情勢が発表されました。

昨年度の富山県内の雇用環境は、引き続き安定した状態にあり、有効求人倍率は1.59倍（全国1.35倍）、正社員有効求人倍率は1.51倍（全国1.09倍）と、全国を上回る状況が続いています（2022年12月期）。企業の人員整理状況も2022年4月～2023年1月で45事業所640人と低い水準にあります（2012年～2021年の年間平均は60事業所997人）。

個別労働紛争については、労働局長の助言・指導の申出件数は48件（前年同数）、紛争調整委員会によるあっせんの申請件数は10件（前年比4件減）で、労働基準関係法令上の相談のうち、過重労働にかかる相談件数は132件（同34件減）、賃金不払残業にかかる相談件数は348件（同3件減）でした。

労働基準監督署において直接受理した、賃金不払、解雇など労働基準関係法令上の問題が認められるとした申告事案の件数は175件（前年比3件増）、労働基準関係法令上の問題にかかる相談（2022年4月～2023年1月）のうち、過重労働にかかる相談件数は132件（同34件減）、賃金不払残業にかかる相談件数は348件（同3件減）となっています。また、民事上の個別労働紛争に関して、個別労働関係紛争解決促進法に基づく労働局長の助言・指導の申出件数は48件（前年同数）、紛争調整委員会によるあっせんの申請件数は10件（前年比4件減）でした。

1. 雇用をめぐる動向

（1）女性の雇用状況

女性雇用者数 225,700人（雇用者総数の47.5%）
 正規職員（従業員）割合 51.5%（全国第3位）※1
 女性管理職比率 9.2%（全国9.8%）※2
 育児休業取得率 女性 98.6% 男性 15.6% ※3
 （ 〃 全国 女性 85.1% 男性 13.9%）※4

※「産後パパ育休」2022年10月施行、「従業員1,000人超企業育児休業等取得状況の公表」23年4月施行

（2）高齢者の雇用状況

70歳までの高齢者就業確保措置を実施している企業の割合 21.2%

（3）障害者の雇用状況

実雇用率 2.24%（前年比0.06%増）
 雇用率達成企業割合 55.9%（前年比1.8%増）

注：法定雇用率が2024年4月から2.5%、2026年7月から2.7%（3.0%）と段階的に引き上げられる。

（4）外国人の雇用状況（2022年10月31日現在）

事業所数 2,207事業所（前年比+2.0%）

外国人労働者数 12,221人（前年比+6.6%）

〔国籍別〕ベトナム4,075人（外国人労働者全体の33.3%）、中国2,271人（同18.6%）、フィリピン1,709人（同14.0%）、ブラジル1,383人（同11.3%）

（5）非正規雇用労働者の雇用状況

非正規雇用労働者数 157,200人

雇用者に占める割合 33.1%（全国38.2%）

パート・アルバイト 22.7%（全国26.4%）

契約社員 4.5%（全国5.4%）

派遣社員 1.8%（全国2.5%）

〔業種別〕卸・小売業（21.1%）、製造業（16.2%）、医療・福祉（13.4%）※5

2. 労働条件等をめぐる動向

（1）労働時間等の状況（事業所規模30人以上）

年間総実労働時間 1,750時間（全国1,634時間）

所定内労働時間 1,628時間（前年比18時間減）

所定外労働時間 122時間（前年比3時間増）

全国に比べて長い状況が続いている。※6

（2）年次有給休暇平均取得率の状況

60.2%（前年51.0%） 全国58.3%（前年56.6%）

（3）労働災害の状況

休業4日以上之死傷者 2,052人（前年比829人増）

死亡者数 11人（前年同数）

全死傷者のうち、新型コロナウイルス感染症による休業が929人（前年比855人増）で45.3%を、転倒災害によるものが17.5%を占めているほか、60歳以上の死傷者が22.2%を占めた。

（4）労災補償の状況（2021年度）

新規受給者数 5,826人（前年比3.9%増加）

脳・心臓疾患事案 6件（前年比1件増）

精神障害事案 10件（前年比1件増）

新型コロナウイルス感染症にかかる請求件数は、2020年度は29件、2021年度は75件、さらに2022年度は12月末現在で519件と大幅増加となっている。

※1 2017年就業構造基本調査

※2 2022年国勢調査

※3 富山県2022年度賃金等労働条件実態調査

※4 厚労省2021年度雇用均等基本調査

※5 2017年就業構造基本調査

※6 毎月勤労統計調査

「人事・労務相談室」のご案内

2023年度は、火曜日の開催となります。（原則毎月第2、第3火曜日の午後）
 概要は、富山県経営者協会のホームページをご覧ください。

地元密着のものづくり 多様性ある組織をめざす

株式会社長谷川製作所
代表取締役社長

長谷川俊太郎 氏



100年にわたってものづくりを続けていらっしゃいます。沿革をお尋ねします。

これまで、1923（大正12）年に私の曾祖父が砺波の中央町で筵を織る製筵機^{せいせんき}の製造販売を創業したと伝わってきたのですが、100周年を迎えるにあたって古い資料を探したところ、高祖父の長谷川間三郎が1907（明治40）年に製筵機を作り始めたという記録が見つかりました。富山県は昭和30年代ま

で全国一の筵の生産県だったそうで、曾祖父、祖父が事業を拡大し、1951（昭和26）年には長谷川製筵機製作所として法人化しました。明治期から地元の主幹産業向けの機械メーカーだったのですね。現在はどのようになっていますか。

高度経済成長期になると筵の需要が減少します。そこで1961年から、製筵機の金属部品の加工技術や機械の製造技術を生かして、呉羽自動車工業（株）（現三菱ふそうバ

ス製造（株）のバス用シャーシフレームと、（株）トヤマキカイ（現コマツNTC（株））の工作機械を手がけるようになり、バス事業と工作機械事業の2つが経営の柱として大きくなりました。

バス事業は板金加工から溶接、組立までを一貫して行っています。中厚板の溶接は、当社が得意とする技術の1つです。

工作機械部門では、自動車のエンジン部品を作るための複合的な製造設備（トランスファーマシン）の設計製作をしており、現地で設置まで担当することもあります。

2019年には、後継者不在だった埼玉県の（株）久保製作所を買収しました。貼箱（紙製の飾り箱）製造装置の製造や熱交換器の部品加工を行っている会社で、当社にとって新分野への進出と、両社のシナジー効果が得られると見込んでのM&Aです。直後にコロナショックに突入し、実際にはこれからその効果をねらっていきます。

—社員の安心感が信頼品質に—

経営に対するお考えを伺います。

経営理念は、「安心・安全・信頼の『ものづくり』を通して、すべてのステークホルダーの継続的发展に寄与する『ものづくり企業』を目指す」としています。ステークホルダーの中でも社員とその家族をトップに考えております。当社は、新卒採用から長く働いている社員が多く、長期雇用に対する安心感があると感じます。

ここまで長く経営できたのは、会社に対する社員の信頼感が、安心・安全なものづくりのベースとなり、長年、取引先からの信頼も得られているからだと思います。

社員を大切にされていることがよ

く分かります。人材確保はいかがですか。

近年、若い新入社員の採用が困難な状況が続き、多くのベテラン技能者に頑張ってもらっています。そのような中、3年前に最新の溶接ロボットを導入し、期待以上に複雑な溶接ができると分かりました。省力化につながっています。

人材育成はどうされていますか。

外部のコンサルタントの指導も入れながら、5Sの徹底を図り、IT技術や省力化機器を導入して生産性の向上に努めていますが、技能の伝承が課題です。一番大きいのは、世代間の考え方や行動のギャップだと思います。

以前は、職人の仕事は現場で見て覚えるものでしたが、今の若い方は積極的に教を請うということがあまりなく、ベテランの方も、どのように教えたら良いか、伝え方に苦慮してるように感じます。

ーデジタル活用で見える化ー

ベテランの技能を伝承することは大切です。

とにかく社内のコミュニケーションを潤滑にしたいと社内SNSを導入し、社員のスマホに直接メッセージを送れるようにしました。現状では、私が朝礼などで伝えきれない考えや方針などを発信して

いますが、ゆくゆくは相互の交流に役立てたいと考えています。

もう1つ、埼玉の会社がグループに入ったことを受けて、クラウド型の生産管理システムを導入しました。離れた富山からでも管理ができるようにしたところ、このデジタル化により仕事の見える化が進みました。

今後さらに、ベテラン社員の作業などで目的がはっきりしない動きもあるので、ルールや手順を見直して見える化を図ると、かなり効率化するとみています。また、これまでOJTで教えてきた技術も、写真や動画に残して伝えやすくしようと計画しています。

自動車のEV化が進む中で、今後の取り組みを教えてください。

現在手がけている工作機械は自動車向けが主力で、EV化の進展とともに大きく変わる可能性があります。バスのシャーシも大幅な構造変更も考えられ、国際競争も激しくなることが予想されます。

当社は発注元と一緒に設計から部品加工、組立、完成品の精度確認までを一貫して行う技術を持っています。この技術力を、新しいEV向け製品にも展開していきたいと考えています。

また、工作機械そのものを作ってきたので、機械を使って部品を

製作する技術もあります。量産品は難しいながらも、最近、大手メーカーの特殊なエンジン部品の製造の依頼がありました。当社の得意とする技術を持つ会社が国内には少なくなっており、EV化が進む中でも、特殊製品の引き合いは増えてくると予想しています。

座右の銘をお願いします。

「生き残るのは、種の中で最も強い者でもなく、最も賢い者でもない。変化に最も適応できるものが生き残るのである」。自然科学者ダーウインの言葉とも、社会学者スペンサーがダーウインの「進化論」を人間社会に展開したものとも言われていますが、いずれにしても多様性のある組織が生き残る可能性が高いということだと理解しています。

多様な技術を持ち、多様な事業展開もねらっていきませんが、当社のような中小企業では、予想できる未来に対して能動的に対応し、限られた時間軸の中で個々が環境の変化に追従して進化発展していくことだと思います。社員にも技能向上を通して仕事の幅を広げることを年度目標にして呼びかけています。

会社概要

株式会社長谷川製作所

創業：1907(明治40)年

所在地：砺波市三郎丸111-1

資本金：5,000万円

事業内容：専用工作機械・産業用機械の
設計製作、自動車部品加工用
トランスファーマシンの設計製
作、バス用シャーシフレーム製
造、自動車用部品加工

従業員数：123名(2023年3月現在)

関連会社：(株)久保製作所(川口市)



大型マシニングセンタも備える

略歴

1977(昭和52)年3月砺波市生まれ。2002年上智大学大学院理工学部機械工学専攻修了。コンサルティング会社勤務を経て、2006年(株)長谷川製作所へ入社。2013年9月代表取締役社長に就任。

2023年4月新卒者等の採用に関する調査

採用実績は全体で前年比2.4%増 製造業は10.9%増、非製造業4.7%減 2024年4月採用は増加の予定

当協会では標記調査結果をまとめた。2023年4月（'23/4）新卒者の採用実績は、全産業では前年比2.4%の増加となった。産業別の内訳は、製造業が10.9%の増加、非製造業が4.7%の減少となっている。

また、2024年4月（'24/4）の採用予定数は、具体的数値で回答があった企業で見ると、全産業では'23/4の採用実績に対して36.1%の増加予定となっている。産業別の内訳では、製造業が41.8%、非製造業が29.8%の増加予定となっている。

〔調査対象企業等〕

調査対象は、当協会会員企業466社（2月1日現在）。回答は229社からいただいた（回収率49.1%）。内訳は製造業122社、非製造業107社である。この調査は1995年より毎年行っているもので、今回は29回目となる。

1. 新卒者の採用状況

（1）2023年4月採用実績

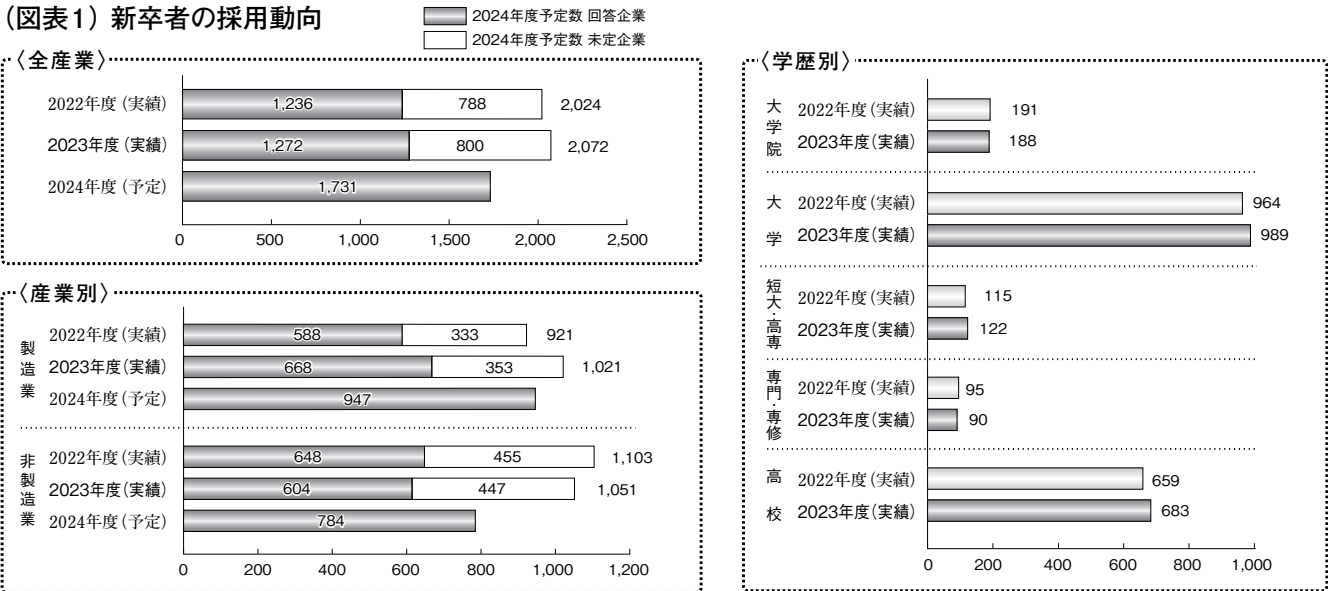
全産業・全学歴計で見ると、2022年4月（'22/4）の2,024人に対して'23/4は2,072人で48人増加（+2.4%）となった。

産業別で見ると、製造業では'22/4の921人に対して'23/4が1,021人で100人増加（+10.9%）、非製造業では'22/4の1,103人に対して'23/4が1,051人で52人減少（▲4.7%）となった。

次に、学歴別にみると、大学院卒が'22/4の191人から'23/4の188人（3人減、▲1.6%）、大学卒が'22/4の964人から'23/4の989人（25人増、+2.6%）、短大・高専卒が'22/4の115人から'23/4の122人（7人増、+6.1%）と増加であった。

一方、専門・専修卒で5人減少（95人から90人、▲5.3%）し、高校卒で24人増加（659人から683人、+3.6%）となった。（図表1）

（図表1）新卒者の採用動向



(2) 2024年4月採用予定

’24/4の採用予定数について、全産業229社で具体的数値での回答があった146社（63.8%）の合計は1,731人で、同じ146社の’23/4の採用実績1,272人に対して459人増（+36.1%）となっている。また、’24/4の採用予定者数を未定としている企業が83社（36.2%）あり、’23/4の採用実績は800人であった。

産業別でみると、製造業122社で’24/4の採用予定者数について具体的数値で回答があった76社（62.3%）の合計は947人であり、同じ76社の’23/4の採用実績668人に対して279人増（+41.8%）となっている。また、’24/4の採用予定者数を未定としている企業が46社（37.7%）あり、’23/4の採用実績は353人であった。

非製造業107社で’24/4の採用予定者数について具体的数値で回答があった70社（65.4%）の合計は784人であり、同じ70社の’23/4の採用実績604人に対して180人増（+29.8%）となっている。また、’24/4の採用予定者数を未定としている企業が37社（34.6%）あり、’23/4の採用実績は447人であった。（表2）

(表2) 業種別採用状況(実績・予定)

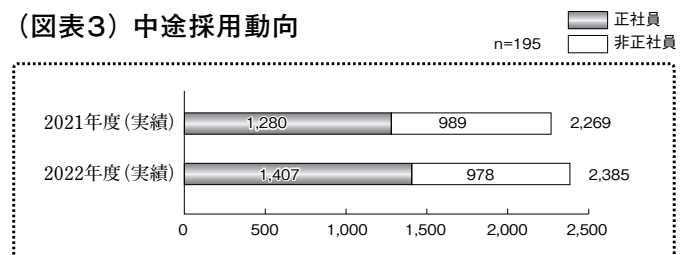
(単位：人)

産 業 区 分	2024年度採用予定回答企業				2024年度採用未定企業		
	企業数	24年4月 予定	23年4月 実績	22年4月 実績	企業数	23年4月 実績	22年4月 実績
食 料 品 ・ 飲 料	1	3	0	3	2	5	6
織 維	1	2	0	0	2	1	9
木 材 ・ パ ル プ ・ 紙	4	21	7	14	2	7	8
印 刷	0	0	0	0	4	40	39
化 学	14	161	101	81	9	73	87
プ ラ ス チ ッ ク ・ ゴ ム	8	73	28	54	2	14	10
鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	4	28	15	15	3	17	10
金 属 製 品	8	55	45	48	9	164	140
汎 用 ・ 生 産 機 械 器 具	16	283	226	185	6	11	4
電 子 ・ 電 気 機 械 器 具	9	86	69	74	4	16	13
輸 送 用 機 械 器 具	6	80	60	51	0	0	0
そ の 他 製 造 業	5	155	117	63	3	5	7
製 造 業 計	76	947	668	588	46	353	333
建 設	16	193	168	161	8	67	70
電 気 ・ ガ ス	3	115	121	124	0	0	0
情 報 通 信	4	60	46	50	7	174	188
運 輸	10	100	49	61	7	19	19
卸 ・ 小 売	18	105	55	71	8	42	64
金 融 ・ 保 険	2	14	9	11	2	135	106
宿泊・飲食・生活関連	1	1	0	0	1	3	3
学術・専門・技術サービス	5	69	51	60	1	2	0
教育・医療・福祉	2	27	23	23	1	0	0
そ の 他 非 製 造 業	9	100	82	87	2	5	5
非製造業計	70	784	604	648	37	447	455
全 産 業 計	146	1,731	1,272	1,236	83	800	788

2. 中途採用の状況

’22年度中に中途採用を行った企業は229社中195社（85.2%）で、’21年度の採用実績2,269人に対して’22年度の採用実績は2,385人となり、116人増加（+5.1%）となった。正社員で127人増加（1,280人から1,407人、+9.9%）、非正規社員で11人減少（989人から978人、▲1.1%）となった。（図表3）

(図表3) 中途採用動向



事業活動報告

理事会

3月3日（金）17時35分から、富山電気ビル4階8号室で、山下会長はじめ理事10名、監事2名が出席して、3月理事会を開催した。

山下会長が議長となり、(1)2023年度事業方針(案)の件、(2)2023年度暫定予算(案)の件について審議し、すべての議案は全員異議なく承認された。続いて、①2022年度事業実績、②2023年度行事スケジュールについて報告があった。



幹事会

3月3日（金）16時30分から、富山電気ビル4階光の間で49名が出席して、幹事会を開催した。

山下会長の挨拶の後、下記の報告を行った。

(1) 2022年度事業報告

第77回定時総会は、5月23日に開催し、2021年度事業報告と財務諸表、県に提出する公益目的支出計画実施報告、2022年度事業計画と損益予算、理事の選任について審議し、承認された。

総会終了後、同志社大学政策学部教授の太田肇氏を招き、「ポストコロナの組織と働き方」と題して、講演会を行った。

理事会は、4月25日、5月23日、9月16日の3回と、書面理事会を1月31日に開催した。

会員懇談会は、7月22日に西部地区、9月16日に富山地区、11月11日に東部地区、合わせて3回開催し、経済5団体合同の新春互礼会は1月4日に開催した。

広報活動のうち、機関誌は7回発行、開催した講演会は小冊子にとりまとめて配布し、ホームページにも掲載した。

調査活動である定期調査は7回、経営課題調査を2回と緊急調査を1回実施。

講座・セミナーは、オンライン併用を含め開催回数は例年並みの52回となったが、新型コロナウイルス感染拡

大防止対策を最優先しソーシャルディスタンス確保のため定員を半減としているが、年終盤の社会情勢に合わせた多少の定員緩和等により参加者は300名ほど増加した。

受託事業として、富山県から「TOYAMATCH（トヤマッチ）創設事業」と「現場の技術・技能伝承支援事業」を受託した。

委員会活動について、矢野総務交流委員会委員長、八十島人事・労務政策委員会委員長、品川教育委員会委員長、谷川品質管理委員会委員長、（環境委員会委員長報告は寺山専務理事が代読）、萩中経営企画・IT委員会委員長から報告があった。最後に、教育委員会研究部会から、テーマ「各社の人材育成の課題と取り組みの共有と自社人材育成の改善提言」について成果報告があった。

(2) 2022年度正味財産増減見込み報告

受取会費は53,780千円、講座・セミナー事業収益は、新型コロナウイルスの規制緩和で受講者が増えたことから、講座セミナーは予算より500千円増の26,500千円、オーダーメイド研修会は1,800千円の見込み。県受託事業収益は予算通りの21,800千円を見込んでいる。雑収益は、805千円を予定。経常収益計は106,921千円となる見込み。

経常費用計は、総会や会員懇談会を例年通りの規模では開催でき



なかったため、予算に対し約6,179千円の減少となり、109,796千円の見込みである。

この結果、評価損益等調整前当期経常増減額の見込みは、▲2,875千円となり、予算に対し約3,500千円の収支改善となる。

(3) 2023年度暫定予算(案)報告

受取会費は、会員数466社を前提として、53,500千円とした。事業収益は、講座セミナー事業で30,000千円、委員会事業で3,600千円、オーダーメイド研修で1,750千円、会員共益事業で1,600千円、県受託業務事業で7,600千円とし、計44,559千円の予算とした。雑収益は705千円で予算を組み、経常収益計は、98,756千円の予算とした。

一方、経常費用は、総会や会員懇談会を例年通りの規模で開催することを前提に、104,626千円で予算を組んだ。

この結果、評価損益等調整前当期経常増減額は、▲5,870千円となる。

報告終了後、山下会長から、「2023年度の全体行事日程」の連絡と参加の依頼があった。

連合との懇談会

3月3日（金）、連合富山役員と富山経協役員との懇談会が富山電気ビルで開催された。

当協会からは山下会長、八十島副会長、矢野副会長、浅野副会長、中西理事、谷川理事、品川理事、金岡相談役、中原人事・労務政策委員会副委員長、寺山専務理事の10名が、連合富山からは浜守会長はじめ13名が出席した。

懇談会に先立ち、浜守会長から山下会長へ要請書が手渡された。要請書では、働く者の暮らしは、昨年来の「コロナ禍・物価高・円安」の三重苦が日々の生活を苦しめ続けており、物価高を踏まえた賃上げに労使協調で取り組むことが重要であることに加え、積極的な「人への投資」が個々の能力を高め企業の発展や経済成長につながるものであると示し、5つのテーマと個々の要請について、申し入れし

ている。[①賃上げ要請 ②「すべての労働者の立場にたった働き方」の改善 ③「取引の適正化」の推進 ④ジェンダー平等・多様性の推進 ⑤安心・安全で健康に働くことができる職場づくり]

さらに浜守会長は、「人への投資は単なるコストではなく、未来への投資と考える。人材力、現場力を高めるためにも賃金の引上げは必要不可欠であり、直面する困難や課題を乗り越えて産業、企業の生き残りや健全な成長へ切り開く唯一の道であり、労使の信頼関係の上で十分に話し合い、納得のできる水準で、早期に決着していくことが大切である」と述べた。

これを受けて、山下会長は、「経営者協会の経営側も同じ視点を持っている。そういう意味では非常に共通するところだと思っている。2月2日に経団連の十倉会長



が連合の吉野会長と行った懇談会で、双方の向かう方向性に相反するところは見当たらない。そういう意味では労使ともに同じ課題を持っている。そして協調しながらその課題を解決していかなくてはならない。今、労使協調の時代になっている。但し、なれ合いになれと言っている訳ではない。緊張感をもって言いたいことは言う。そして、それに対して意見を言う。お互いに意見を言い合い、しかし、労使共通の課題があれば、それに取り組む。そういう関係を築いていきたい」と述べた。

その後、自由討議に入り、活発な意見交換を行った。

2023年2月14日～4月10日

(OL)=オンライン併用開催

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加人数
会議	教育委員会「見学会・定例委員会」	教育	2月17日(金)	塩谷建設㈱	17名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	2月21日(火)	タワー 111ビル3階スカイホール	18名
	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	2月24日(金)	タワー 111ビル 2階会議室2	6名
	人事・労務政策委員会「講演会・定例委員会」	人事・労務政策	2月27日(月)	富山経協・研修室	21名
	連合富山役員と富山経協役員との懇談会		3月 3日(金)	富山電気ビル	23名
	幹事会		3月 3日(金)	富山電気ビル	49名
	理事会		3月 3日(金)	富山電気ビル	12名
見学会	環境委員会「県内企業見学会」	環境	3月14日(火)	(株)タニハタ	11名
講座・セミナー	職場リーダー実践コース	教育	2月14日(火)・15日(水)	富山経協・研修室	25名
	労働法実務講座＜第4回＞	人事・労務政策	2月16日(木)	富山経協・研修室 (OL)	13名
	情報セキュリティ基礎セミナー	経営企画・IT	2月22日(水)	富山経協・研修室 (OL)	22名
	次世代経営者育成セミナー ～ひと・しごと未来創生塾～	経営企画・IT	2月24日(金)	富山経協・研修室	4名
	カーボンニュートラル支援セミナー	環境	2月28日(火)	富山経協・研修室 (OL)	47名
	若手社員ステップアップコース	教育	3月 7日(火)	富山経協・研修室	28名
	ISO9001内部監査員養成講座	品質管理	3月 8日(水)・9日(木)	富山経協・研修室	28名
	改善セミナー・応用編 ～改善レベルアップ講座～	教育	3月15日(水)	富山経協・研修室 (OL)	21名
	新入社員合同研修＜A日程＞	教育	4月 6日(木)	タワー 111ビル3階スカイホール	75名

人事・労務政策委員会

■定例委員会

2月27日(月)、定例委員会に合わせて、講演会を富山経協・研修室で開催した。

第1部の講演会は、八十島委員長はじめ委員21名が参加。急速に進行する少子高齢化・人口減少という構造変化のもと、深刻な人手不足が進み、企業経営の大きな課題となっていることを踏まえ、講師には社労士モリマユミオフィスの特定社会保険労務士 森眞弓氏

を招き、「従業員の定着・成長のためにキャリアを考えてみましょう」と題して講演いただいた。出席者は5グループに分かれて、個人ワークやグループワークの意見交換を交え、最新情報の共有を図り知識を深めた。

第2部の第4回定例委員会は委員21名が出席し、八十島委員長挨拶の後、事務局より委員交代の紹介、2022年度事業活動と今後の予定について報告した。引き続き、



2023年度の事業計画について説明した。

品質管理委員会

■定例委員会

2月21日(火)、谷川委員長はじめ委員・担当者18名が出席して、タワー111ビル3階スカイホールで開催した。

定例委員会では、2022年度事業活動報告および2023年度事業活動計画を説明し、幹事会を2回、定例委員会を4回、7月は企業見学会、9月と12月は事例発表とグループディスカッション、2月は勉強会と、それぞれ合わせて行う

ことなどを確認した。また、講座・セミナーは年間15講座を開催することと、担当委員割についても継続していくことを確認した。

委員会の活動テーマを「品質管理のためのデジタル技術の活用知識向上」とし、現場で導入している事業所の事例や、委員会社で適用している事例の発表などを含めて勉強していく。

委員会の後、「品質教育を核とした人材育成における問題・課題



とその対応策」を大テーマに、委員・担当者が3班に分かれ、12月に引き続いて活発なディスカッションを行い、班ごとに発表した。

環境委員会

■県内企業見学会

3月14日(火)、谷内副委員長はじめ委員11名が参加して、(株)タニハタを訪問した。

はじめに谷端社長より、1959年の創業以来、組子に特化した建具を製造してきたこと、最近では大型の宿泊施設や海外からの発注も増え、Webを通じた情報発信にも力を入れているとの説明を聞いた後、組子の制作体験を行った。

続いて展示室で、美術組子「雨

晴海岸から見た立山」や1977年の内閣総理大臣賞受賞作品を見学し、作業場に移動した。同社では作業場で発生するオガクズは工場内でペレット加工を行い、ペレットストーブの燃料として端材の有効活用を行っている。さらに電力は自社の太陽光発電と、水力発電による「グリーン電力」を契約し、100%自然エネルギーを使用しており、社員全員が「脱炭素」を意識したモノづくり



を行っていることを感じる事ができた。

教育委員会

■定例委員会

2月17日(金)、久保田副委員長はじめ17名が参加して塩谷建設(株)会議室にて開催した。

定例委員会に先立ち、塩谷建設(株)による教育制度見学会を実施した。はじめに2班に分かれてオフィス内を見学した。次に代表取締役社長の塩谷洋平氏より会社概

要と企業としての変革についての説明と、常務取締役建設部門長の橋田慎司氏より教育環境の変化やSHIOTANIアカデミーについて紹介を受けた後、活発に意見交換を行った。

定例委員会では、久保田副委員長の挨拶の後、2022年度委員会事業報告と2023年度事業計画につい



て協議した。

経営企画・IT委員会

■定例委員会

2月24日(金)、萩中委員長はじめ6名が出席してタワー 111ビル 2階会議室2で開催した。

萩中委員長の挨拶、委員交代の紹介後、事務局より2022年度事業活動報告をして、今年度を振り返った。次に2023年度委員会事業

計画(案)について事務局より説明し、審議した。次世代経営者育成セミナーについては、次年度も開催を計画し、対象者や募集方法を工夫し進めていくこととなった。

今回の委員会は6月23日(金)に開催する。



講座・セミナー

■次世代経営者育成セミナー

地域の中核企業の次世代経営者育成を目指し、昨年9月にスタートした「次世代経営者育成セミナー～ひと・しごと未来創生塾(第3期)～」が最終日を迎え2月24日(金)、富山経協・研修室で、塾生4名と来賓はじめ関係者30名が出席して「卒塾式」を開催した。

共催のトーマツ森川塾長挨拶の後、塾生全員によるスピーチ、続いて事業構想のプレゼンテーションが行われ、塾生が自身の置かれた立場に対峙し、生き方や将来のビジョンに向けた決意と覚悟を熱く語った。

発表後、山下会長が各塾生に卒塾証書を手渡し、「企業は経営者のバトンタッチをしながら、永続

的に進めていかななくてはならない。今回学ばれたことをいかして、富山県の産業の発展に寄与していただきたい」と式辞を述べた。塾生に対する激励の言葉が、富山県商工労働部の齊木次長、経営企画・IT委員会の萩中委員長、トーマツの小畑マネジャーからあった。

塾生を代表して三宝流通(株)向祐一朗専務取締役から、約5か月を振り返り「自問自答を繰り返す日々が続く、時には苦しく、分からなくなったが、メンターの支えにより、9月9日の開講式の時より、自分が何を目指さなくてはならないか？ 自分が進むべき道はどこなのか？ 何をやり遂げなくてはいいけないのか？ どう地域に貢献できるか？」を、より明確にす



ることができた」と、御礼と感謝の言葉があった。

最後にトーマツ齋藤シニアマネジャーが閉会の挨拶をして、卒塾式を終了した。

階層別研修

■職場リーダー実践コース

2月14日(火)・15日(水)に25名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の(公財)日本生産性本部 主任経営コンサルタント 澤倉光仁氏が、企業や組織をとりまく環境変化と係長・主任の果たすべき役割について講義し、活発な意見交換を通して理解を深めた。この

中で、①目標の達成に導く実践的なマネジメント方法(PDCA手法)を修得すること、②監督職としてのリーダーシップと部下の状況や個性に応じた育成の考え方・スキルを身につけること、③部下育成技術としての交流分析やコーチング技法に関する理解と実践力を強化すること、④コンプライアンスやメンタルヘルスを推進する



上でのリーダーシップ発揮の要点と方法について理解を深めた。

■若手社員ステップアップコース

3月7日(火)、28名が参加して富山経協・研修室で開催した。本研修は入社1年～3年程度の若手社員を対象に「自ら組織に働きかけ、組織の活性化に貢献できる」人材となるための心構え・知識・スキル、さらには後輩を指導するための「後輩指導力」を養うことをねらいに企画している。

(公財)日本生産性本部 経営コンサルタントの林正和講師は、仕事とは一人の才能や強みを貢献に変えるプロセスであるとした上で、①仕事哲学、②リーダーシップ、③チーム力、④後輩指導力について講義し、グループディスカッションで受講者同士の経験を共有しながら学んだ。最後に、本研修で学んだことを自社で活用す



るため「実践活用シート」を作成し、個人目標を立てて終了した。

参加者NOTES

「若手社員ステップアップコース」 を受講して

立山製薬工場株式会社
品質管理グループ

杉村 美愛



今回の講座では「頼りになる先輩社員になる」をコンセプトに、仕事への理解を深め、周囲に影響を与える人材となるために必要な考え方を学ぶことができました。

講座の中で「リーダーシップとは仕事を上手くすすめるために、他のメンバーや組織全体に影響を与えること」であり、肩書きや役職に関係なく誰でもリーダーシップを発揮できる場面があるというお話をされていました。リーダーシップという言葉を知ると周囲を自ら牽引していくイメージが強くあり、仕事上でいきなりそれを発

揮することは難しいと考えていました。今回の講座から、私にできることを自ら考えて行動し、周囲に良い結果をもたらすことが重要であるという気づきを得ました。

また、「仕事における指導の意味は、望ましい行動に導くための情報提供」であり、褒めることは期待行動が強化されてその行動が定着するために必要であるというお話をされていました。仕事における指導を想像すると叱ることがまず思いつき、褒めることで望ましい行動が継続するという発想がありませんでした。指導する側が

一貫性を持って褒め続けることで承認欲求が満たされて後輩の自己肯定感にも繋がるため、後輩の成長を促すために重要であると学習しました。更に、叱る際は望ましくない行動を客観的に伝え、その行動による影響や本来期待されている行動、後輩に期待を寄せていることまで伝えることで、後輩の成長に繋がることも学びました。今後後輩を指導していく上で望ましい行動が為された際は即座に一貫性を持って褒め、叱る際は丁寧に説明していくことを心がけたいと思います。

今回の講座で学んだことを活用して自分らしいリーダーシップを発揮し、周囲に良い影響を与え続ける存在になれるよう努力していく必要があると認識できたとても良い機会となりました。

■2023年度新入社員合同研修

4月6日(木)のA日程に、20社75名の新入社員が参加、同11日(火)のB日程に、26社74名の新入社員が参加して、タワー111ビルスカイホールで開催した。

「社会人としての基本と企業人としての心構え」を学ぶことをねらいに、(公財)日本生産性本部主席経営コンサルタントの林正和氏、(株)コトノハ代表の廣川奈美子氏、島崎社会保険労務士事務所所長の島崎裕美子氏、富山県金融広報委員会金融広報アドバイザーの漆間明子氏、そして当協会 浅野慎一副会長の5氏が講義・講話した。



第1部 経営者講話

浅野副会長が「新入社員の皆さんに望む」と題して講演した。

<要旨>

社会人に求められることとして、①まず社会人としての自覚をもつ、②自分を管理(体調・時間・お金)する、③仕事のやりがいを見つける、④PDCAを意識し、常に目的意識を持つこと。

YKK(株)創業社長 吉田忠雄の言葉に「もう一枚の努力」がある。一生懸命に仕事をしたあとで、もう一枚分の0.0何ミリという、紙一枚分の厚さの努力をその上に乗せる。「もうこれ以上できない」。しかし、そこで奮起してもう紙一枚分の努力を365日、毎日続けることによって、結果的に大きな変化に繋がっていく。

同じ日が再び来ないことを肝に銘じ、一日を精一杯、大切に過ごしていただきたい。これが自分を磨き、高め、さらに会社を豊かに

し、社会へ貢献していくことにも繋がっていく。

「新社会人」と呼ばれるのは一生に一度だけ。今、会社に貢献できるのは、フレッシュさ。元気な挨拶、てきぱきとした行動、そもそもいるだけでフレッシュ！これから社会を担うのは君たち。同期の仲間と励まし合い、研鑽し合って成長して欲しい。

第2部 学生から社会人へ・

職場のコミュニケーション・

指示命令の受け方と報告の仕方

林講師が、学校生活と職場生活の違いを正しく理解するため、組織人としての態度や行動、また、仕事に取り組む意識として、組織の目的と社会的責任を認識しなければならないとし、顧客意識、品質意識など5つの意識と、整理、整頓など安全の3Sを常に意識する必要があるとした。続いて、コミュニケーションを行う際の心構え、上手なコミュニケーションのための基本、報告・連絡・相談の大切さと、指示命令の受け方として、呼ばれたら、メモを取る、復唱するなどの具体的な指導を通して、考えて行動することの大切さを伝えた。

第3部 消費者トラブル対処法 ～自分の財産は自分で守る～

金融広報アドバイザー(消費生活相談員)漆間氏が、最近の若者に多いトラブル事例とその対処法について詳しく説明し、今後、リテラシーの向上、情報収集、専門施設へ相談することが重要であると伝えた。

第4部 社会人としてのマナー ・職場のマナー

廣川氏が、社会人として必要なマナーについて講義した。第一印象の大切さ、身だしなみのポイントや挨拶の仕方などを説明した後、お辞儀の仕方の実技訓練などを行った。

島崎講師は、職場でのマナー・ルールについて講義した。会社のルールである服務規律を守ることの大切さ、職場の風紀・秩序を乱す行為は慎むことなど、企業人として法律に基づき守らなければならない職場での基本について解説した。

第5部 まとめ・レポート作成

林講師が研修を総括し、受講者は本研修で学んだ事柄を自社で活用するため「実践活用シート」を作成し終了した。



共 通

■企業(組織)における

情報セキュリティ基礎セミナー

2月22日(水)、来場6名、オンライン16名が参加し、富山経協・研修室で開催した。

(株)よしだまこと事務所代表の吉田誠氏が、①中小企業におけるセキュリティ事例、②情報セキュリティ 2023年の10大脅威、③中小企業の情報セキュリティ対策について説明した。具体的な対策とし

て、独立行政法人情報処理推進機構が作成したチェックシートを用いて自社のセキュリティレベルを確認し、現状に応じたセキュリティ対策の進め方を検討することや、同機構が作成したドラマ形式の動画も紹介し、従業員向けのセキュリティ対策の一助となることを解説した。



■中小企業向け

「カーボンニュートラル・エネルギー価格高騰対応セミナー」

2月28日(火)、47名(会場13名、オンライン34名)が参加して、富山経協・研修室で開催した。

このセミナーは、国内においても上場企業を中心に取引先に対してCO₂削減目標の設定や再エネ調達などを求める動きが拡大する中、カーボンニュートラルの動向や支援施策の紹介を通じて、足下のエネルギー価格高騰等への対応につなげるきっかけとすることを

ねらいに開催した。

はじめに、環境省中部地方環境事務所ならびに経済産業省中部経済産業局北陸支局より、カーボンニュートラルに関する政策動向や北陸地域における動向・取組事例について紹介・解説いただいた後、中小企業向けカーボンニュートラル関連支援として、経済産業省中部経済産業局北陸支局、中小企業基盤整備機構北陸本部、(一財)北陸電気保安協会から、エネルギー価格高騰対応、SDGs、電気に関する省エネ・脱炭素サー



ビスの3つの視点で、支援施策について説明をいただいた。

■ISO9001内部監査員養成講座

3月8日(水)・9日(木)、28名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

国際規格であるISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項を規定するものであり、県内においても認証取得企業は多く、実施が義務付けられている内部監査の要員養成も企業にとって避けて通れないことから、今年度2回目の開催とした。

講師の(株)テックス ISOコン

サルタントの青山俊一氏は、内部監査は不適合の「修正処置」に留まらず、「改善ツール」であることを再認識する必要があるとした上で、ISO9001規格のポイント、要求事項の解説、ISO9001監査プログラムの概要などについて講義した。

2日目は午後から内部監査の実技演習を行い、約1日半かけて学んだ内部監査を行う上で必要となる関心相関性を確認しながら、自らの職場で実践する上でのポイン



トを学んだ。

■改善セミナー・応用編

3月15日(水)、21名(会場15名、オンライン6名)が参加して、富山経協・研修室で開催した。

この講座は、10月に開催した「改善セミナー・基礎編」に続く応用編で、改善活動を「指導・推進・牽引」するための具体的ノウハウについて検討し、改善活動のレベルアップを実現するために開催している。

改善コンサルタントの東澤文二講師は、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が重要であり、改善のレベルアップのためには、改善を積み重ねる「連続改善」と、改善を組み合わせる「複合改善」が有効であるとした。また、参加者が実際に企業の現場で抱えている問題・課題について、具体的な改善事例に基づいてアドバイスが行われたほか、



改善事例は手間をかけずに書き出して、定石集として取りまとめることを勧めた。



参加者NOTES

「改善セミナー・応用編 ～改善レベルアップ講座～」を受講して

ファインネクス株式会社
JMT製造部

草島 大輔



本セミナーでは「改善バカ」になるための基本的な考え方や、わかりやすい改善実例を用いて改善の考え方を学べたととても有意義な3時間でした。講師の東澤先生の熱意ある講義と、講義内容にもあった要点を強調したスライドはとてもわかりやすく、講義が終わったあとにはいくつかの改善案を考えていた自分に気づき、すこし「改善バカ」に近づいたのではないかと驚いている自分がいました。

本セミナーでは改善に関するいろいろな考え方を学び、自分の間違った考え方や今まで漠然とやっ

てきた改善に新しい指針を得ることができました。特に感銘を受けたのが「とりあえずやってみる、とりあえずやめてみる」です。言葉だけを見れば簡単のように見えますが、現場で働いているとこれがとても難しいのです。何かの作業方法を改善しようとしたときにメリットの他にデメリットも発生することが多々あります。そのデメリットを何とかしようと最初から「完全な改善」を求めて、やる前からいろいろ考え最終的には何もできなかったことが過去に何度もありました。しかし、「改善とは

ホームランではなくヒットの積み重ね」という言葉で、今までの考え方を変えることができました。改善とは最初から完璧を求める「大変」ではなく、とりあえずやってみる「小変」が重要だという考え方です。小変をとりあえず行ってみて良ければさらに改善を、だめなら別アプローチから改善を行っていけばいいという考え方は、今まで何かを変えることに足踏みしていた自分を大きく変える指針になる言葉でした。

今の会社に入社して約15年になり、先輩よりも後輩のほうが増え、教わる側から教える側になりました。改善活動でも何をどうすればいいかわからない後輩たちにいろいろと指導してきましたが、本セミナーで学んだことを活かし、より良い改善ノウハウを指導していきたいと思います。

労務管理

■労働法実務講座(第4回)

2月16日(木)、「新しい働き方と労働組合問題」をテーマに、13名(富山経協・研修室7名とオンラインLive 6名)が参加して、併用開催した。

講師には第一芙蓉法律事務所の木下潮音弁護士が、多様な働き方を求める就労者が増加することを

踏まえ、新たな視点から今まで労働組合の結成が考えられなかった人々(ギグワーカーやフランチャイズオーナー等)が労働組合を結成し、関係する事業主と団体交渉を求めることが発生していることから、多様な働き方と労働組合の関係、個人加入労働組合から団体交渉申し入れを受けた場合の対応



法等、裁判例の解説や、講師自らが扱った事例を踏まえながら分かりやすく解説した。

会員の動き

(50音順)(敬称略)

■ 代表者の変更（窓口代表者）

協和ファーマケミカル株式会社

代表取締役社長 三吉 勇人（前：櫻井 隆）

株式会社小松製作所 氷見工場

氷見工場長 林 譲二（前：西山知克）

三協化成株式会社

代表取締役社長 浦谷 昌克（前：芝田 亮）

大太平洋製鋼株式会社

代表取締役社長 松岡 聡（前：渡邊 譲）

株式会社竹中工務店 富山営業所

営業所長 海谷 博（前：石黒長志）

公立大学法人富山県立大学

理事長 山本 修（前：渋谷克人）

ナチ精工株式会社

代表取締役社長 永田 充央（前：畑 保則）

株式会社ナチツールエンジニアリング

代表取締役社長 畑 保則（前：高田哲彦）

日産化学株式会社 富山工場

執行役員富山工場長 中川 明浩（前：高子 康）

日本高周波鋼業株式会社 富山製造所

専務執行役員富山製造所長 下野 茂治（前：定村 剛）

日本ゼオン株式会社 高岡工場

執行役員高岡工場長 小瀬 智之（前：宮城孝一）

日本曹達株式会社 高岡工場

執行役員高岡工場長 瀬下 敦寛（前：赤塚和則）

株式会社 能作

代表取締役社長 能作 千春（前：能作克治）

株式会社 源

代表取締役社長 四谷 英久（前：源 和之）

■ 所在地変更

ゼオンノース株式会社

高岡市米島1061番地2（前：高岡市江尻351番地）

■ 役職位の変更（窓口代表者）

川端鐵工株式会社

代表取締役会長 川端 康夫（前：代表取締役社長）



表紙の花
サクラ ‘仙台屋’

（富山県中央植物園 大原隆明）

4月から、「日本の植物学の父」といわれた牧野富太郎をモデルにしたテレビドラマが放映されています。94歳の生涯で50万点の標本を作製し、命名した植物は1,500種類に及ぶといわれますが、牧野博士はサクラに特別の愛情を持っていたようで、多数の論文を発表し、新種や栽培品種の命名を行っています。植物園では、牧野博士とサクラに関する展示を行っていますが、その一部をご紹介します。

牧野富太郎がもっとも愛した‘仙台屋’

高知市の呉服屋の庭にあったといわれる栽培品種で、品種名‘仙台屋’（センダイヤ）はこの店の屋号にちなみます。野生種のヤマザクラに似ていますが花はより大きく色が濃く、華やかな印象を受けます。牧野富太郎が最も愛した

サクラとして有名で、郷里高知の知人に何度も苗木を送るよう、せがんだ手紙が残っているそうです。

郷里の佐川で発見・命名した‘ワカキノサクラ’

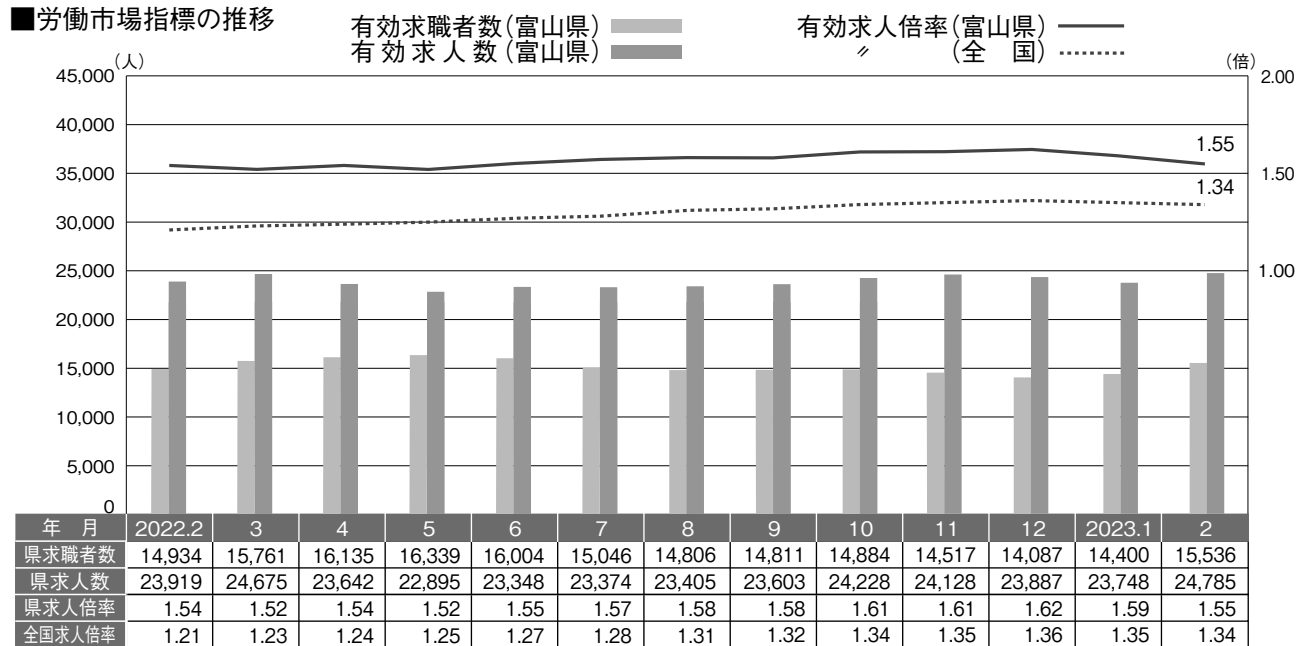
1890年に故郷の高知県佐川町にある尾川城跡で発見、ヤマザクラの垂変種と考えて和名と学名を発表しましたが、その後別種としたサクラです。現在ではヤマザクラの品種として扱われます。ヤマザクラの幼形開花型で、高さは3mほどで、種まきから2年で花が咲くのが特徴です。漢字では「稚木桜」と書かれます。



サクラ ‘ワカキノサクラ’ ▶

労働指標

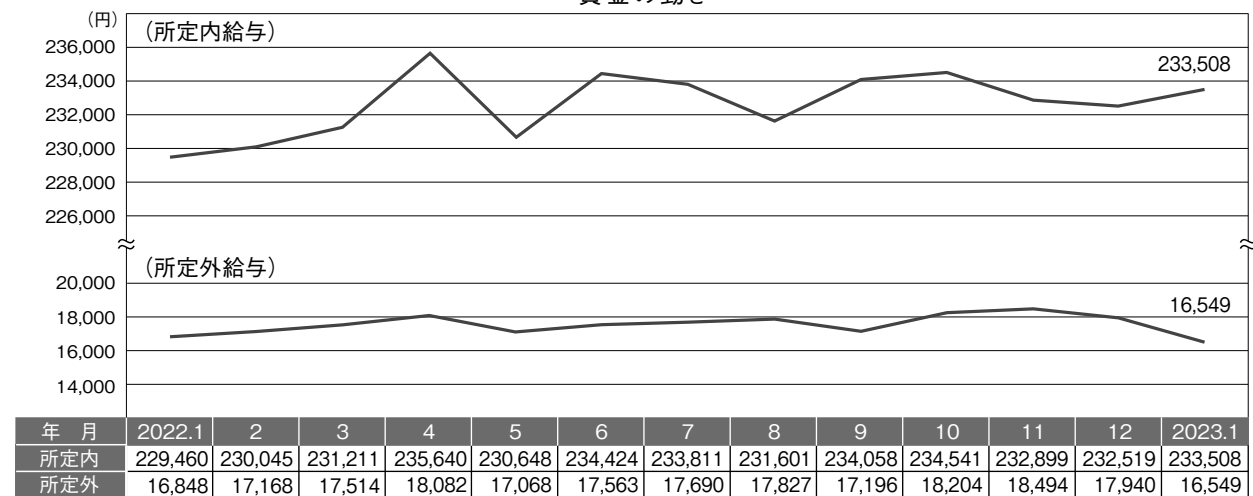
労働市場指標の推移



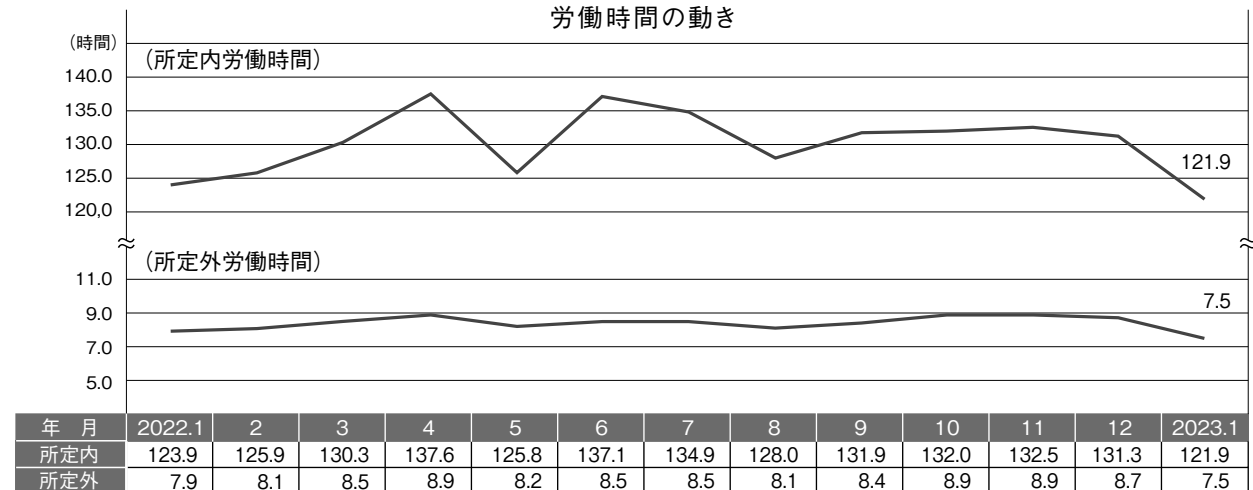
出典：富山労働局「労働市場月報」https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html
 注）2022年12月以前の有効求人倍率の数値は新季節指数により改定されています。

賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

賃金の動き



労働時間の動き



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>

5月25日(木) 一般社団法人 富山県経営者協会 第78回 定 時 総 会

15:00～15:40 定時総会 〈富山国際会議場 3階メインホール〉
16:00～17:30 講演会 富山市大手町1-2 電話 (076)424-5931

演 題 「アフターコロナ」で大きく変わる産業・社会
～勝ち残っていくために必要な視点とは～

講 師： 経済ジャーナリスト 井上 久男 氏
※講演会は同時にオンライン配信も行います。

17:40～19:10 懇 親 会 〈ANAクラウンプラザホテル富山3階「鳳」〉
富山市大手町2-3 電話 (076)495-1111

事 業 予 定

2023年 4月17日～6月15日

詳しくはホームページ(<https://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

OL =オンライン併用開催

開 催 日	時 間	事 業 名	委員会名	場 所
4月21日(金)	16:00～17:00	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	富山経協・研修室
4月24日(月)	16:00～17:00	理事会		富山経協・研修室
4月26日(水)	16:00～17:00	環境委員会「幹事会」	環 境	富山経協・研修室
5月25日(木)	15:00～19:10	定時総会、講演会、懇親会 上記「お知らせ」参照		富山国際会議場 OL ANAクラウンプラザホテル富山
5月25日(木)	15:45～15:55	理事会		富山国際会議場
6月 6日(火)	14:00～16:20	人事・労務政策委員会、教育委員会合同 「定例委員会・企業見学会」	人事・労務政策 教 育	日本ゼオン(株)高岡工場
4月18日(火)・19日(水)	9:30～16:30	営業力強化研修	教 育	富山経協・研修室
4月20日(木)・27日(木) 5月11日(木)	9:00～17:00	品質管理入門講座＜基礎編＞	品質管理	富山経協・研修室 タワー111ビル 3階スカイホール
5月10日(水)	9:30～16:30	仕事の基本「報連相」セミナー	教 育	富山経協・研修室
5月16日(火)・17日(水)	9:30～16:30	職場リーダー基本コース	教 育	タワー111ビル 4階ギャラリー
5月16日(火)・17日(水)	9:30～16:30	ISO14001内部監査員養成講座	環 境	富山経協・研修室
5月18日(木) 6月 1日(木)、15日(木)	9:00～17:00	実践しながら学ぶ統計の手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室 タワー111ビル 2階会議室1
5月23日(火)	9:30～16:30	人事・労務管理セミナー＜第1回＞	人事・労務政策	富山経協・研修室
5月30日(火)・31日(水)	9:30～16:30	【追加開催】職場リーダー基本コース	教 育	富山経協・研修室
6月 6日(火)・ 7日(水)	9:30～16:30	ヒューマンエラー対策講座＜実践編＞	品質管理	富山経協・研修室
6月 8日(木)	9:30～16:30	コミュニケーション力向上セミナー	教 育	富山経協・研修室

「富山経協」vol.874

2023年(令和5年)4月号
2023年4月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0856 富山市牛島新町5番5号(タワー111ビル 1階)
TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952
ホームページ <https://www.toyama-keikyo.jp/>
Eメール info@toyama-keikyo.jp